

面)は、8,000億円(全額長期利付国債)、前年比+33.3%と引続き前年を大幅に上回った。このうち、証券会社取扱いにかかる一般募集分は最近の消化地合い悪化から1,900億円と前月(3,284億円)比大幅に削減された。しかしながら既発債市場利回りと新発債応募者利回りとの乖離幅が前月比さらに拡大したことなどから大口投資家向けを中心に売行きは引続き低調に推移した。

8月の金融債発行額(純増ベース)は、1,533億円と前年(1,177億円)を上回ったが、資金運用部引受分の買入消却等を除いた市中消化分は前年を1割強下回った。

実体経済の動向

◇生産は小幅増加、出荷は減少

(生産——小幅増加)

7月の鉱工業生産(速報、季節調整済み^(注)、前月比)は、+0.3%(船舶を除くと+0.4%)と前月横ばいのあと小幅の増加となった(前年同月比+8.2%)。

(注) 以下増減率は特に断わらない限り前月比または前期比(物価を除き季節調整済み)。

7月の生産を財別にみると、非耐久消費財が減少したもののその他の財は軒並み増加した。すなわち、耐久消費財はエアコン、電気冷蔵庫等家電製品や電卓の増加を主因に4か月連続の増加となり、建設財もアルミサッシ、アルミドア、小棒を中心に3か月連続の増加となった。また、一般資本財は運搬機械、通信機械や電子計算機等の増加から3か月ぶりの増加となり、資本財輸送機械も乗用車(小型、普通)や小型、軽トラックが減少し

鉱工業生産の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	52年		53年		53年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月
鉱 指 数	115.1	116.8	120.2	122.3	122.4	122.4	122.8
工 前 期(月)比	-0.2	1.5	2.9	1.7	0.3	0.0	0.3
業 前 年 同 期(月)比	2.1	2.1	4.2	6.1	6.6	5.8	8.2
投 資 財	0.5	2.4	3.4	1.5	-1.9	-0.8	0.4
資 本 財	1.5	2.5	3.7	2.4	-3.0	-1.7	0.6
同 (輸送機械を除く)	0.8	2.7	6.4	4.0	-5.4	-1.0	0.3
輸 送 機 械	4.0	1.6	-5.1	-0.6	6.2	-3.3	1.4
建 設 財	-1.5	2.4	3.1	-0.8	0.4	0.8	0.4
消 費 財	0.0	2.6	4.3	1.0	0.7	1.7	-0.4
耐 久 消 費 財	0.9	4.8	3.0	3.3	1.5	1.6	0.5
非 耐 久 消 費 財	-0.8	1.3	4.8	0.0	0.6	0.3	-0.4
生 産 財	-0.7	0.4	2.0	1.5	1.5	-0.5	0.6

(注) 1. 通産省調べ。53年7月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

たものの普通トラック、船舶、鉄道車両が増加したため、前月減少のあと増加となった。また、生産財も通信電子部品、鋳鍛品、非鉄地金、同铸件等が減少した一方、鉄鋼素製品(粗鋼、鋼半製品)、冷間仕上鋼材、アルミ圧延品、伸銅製品や石油(ナフサ、重油)、化学肥料等が増加となったため、前月減少のあと小幅ながら増加した。一方、非耐久消費財は繊維二次製品(服類、メリヤス靴下)等の落込みから3か月ぶりに減少した。

(出荷—3か月ぶりに減少)

7月の出荷(速報)は-0.5%(船舶を除くと-0.2%)と前2か月増加のあと減少した(前年同月比+7.5%)。

7月の出荷を財別にみると、耐久消費財が増加したが、それ以外の財はいずれも減少をみた。すなわち、耐久消費財は、自動車(軽、小型)、二輪自動車、ラジオ、音響装置等が減少したものの、エアコン、電気冷蔵庫、電気洗たく機、ガスコンロが増加したことから小幅ながら3か月連続の増加となった。一方、一般資本財が土木建設機械、化学機械、産業用電気機械の減少を主因に再び減

少を示したほか、資本財輸送機械も船舶、乗用車の落込みから引続き減少、建設財もH形鋼、小棒、普通鋼熱間鋼管、鉄骨や土石製品(コンクリートポール、パイル)を中心に3か月ぶりに減少した。また、生産財は石油(ナフサ、軽油、C重油)、プラスチック製品(塩ビ、ポリプロピレン)、紡績(綿糸、合繊紡績糸)が増加した反面、鉄鋼素製品、鋳鍛品やパルプ、板紙、化学肥料等が減少したため、2か月連続の減少となり、非耐久消費財も、合成洗剤等を中心に前月増加のあと小幅ながら減少した。

(在庫—引続き減少)

7月の生産者製品在庫(速報)は、-0.8%と3か月連続の減少(前年同月比-4.1%)となり、同在庫率指数(50年=100)も83.7と前月比0.6ポイント低下した。

財別にみると、一般資本財、資本財輸送機械、非耐久消費財が減少したのに対し、建設財は増加、生産財は横ばいとなった。すなわち、一般資本財は電力・通信ケーブル、土木建設機械、農業用機械が増加したが、エアコン(パッケージ型)、

鉄工業出荷の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減(-)率・%)

	52年		53年		53年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月
鉄工業指数	113.9	115.8	119.6	120.7	121.1	121.4	120.8
前期(月)比	0.0	1.7	3.3	0.9	1.3	0.2	-0.5
前年同期(月)比	1.9	2.9	4.2	6.1	6.8	6.5	7.5
投資財	-1.2	4.0	4.1	0.4	0.3	-0.5	-1.2
資本財	-1.0	4.3	5.3	-0.2	0.5	-1.3	-0.9
同(輸送機械を除く)	0.3	4.8	4.1	4.5	-4.9	2.5	-1.3
輸送機械	-3.2	2.8	7.5	-7.9	12.5	-7.6	-1.3
建設財	-0.3	4.0	0.8	1.0	1.1	1.7	-0.9
消費財	1.6	1.0	5.0	-1.0	0.7	1.8	0.6
耐久消費財	2.6	3.7	4.0	-0.1	2.4	3.9	0.3
非耐久消費財	0.2	0.4	4.9	-1.0	-0.3	0.5	-0.2
生産財	0.0	0.8	2.2	1.6	1.7	-0.2	-0.7

(注) 1. 通産省調べ。53年7月は速報。
2. 前年同期(月)比は原指数による。

鉄工業在庫の動向

(季節調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減(-)率・%)

	52年(期末)		53年(期末)		53年		
	9月	12月	3月	6月	5月	6月	7月
鉄工業指数	105.4	105.7	103.4	102.5	103.6	102.5	101.7
前期(月)末比	-0.7	0.3	-2.2	-0.9	-0.3	-1.1	-0.8
前年同期(月)末比	6.4	3.0	0.9	-3.4	-1.4	-3.4	-4.1
投資財	-1.8	-1.4	-4.0	-3.0	-0.3	-1.5	-1.3
資本財	-0.1	0.9	-5.4	-3.1	0.3	-1.8	-2.7
同(輸送機械を除く)	-1.0	-2.1	-3.2	-4.9	-0.2	-1.4	-2.4
輸送機械	2.4	5.5	-7.5	-1.9	2.3	-4.0	-2.1
建設財	-3.6	-5.0	-1.6	-2.8	-0.7	-1.8	0.1
消費財	-1.3	3.0	-2.1	4.1	1.0	-0.3	-1.8
耐久消費財	-3.3	1.7	1.8	6.1	0.8	1.5	-2.1
非耐久消費財	0.3	2.6	-4.2	3.0	1.9	-1.5	-1.1
生産財	0.8	-1.0	-1.3	-3.2	-1.1	-1.3	0.0

(注) 通産省調べ。53年7月は速報。
前年同期(月)末比は原指数による。

事務用機械(14けた以上の電卓、複写機)、産業用電気機械が減少したため、6ヵ月連続の大幅減となり、資本財輸送機械もトラック、全輪駆動車の減少を主因に引続き減少したほか、非耐久消費財も石油製品(揮発油、灯油)を中心に2ヵ月連続の減少を示した。一方、建設財はアルミサッシ、板ガラスが減少したものの、小棒、セメント、土石製品が増加したため小幅ながら6ヵ月ぶりに増加した。また、生産財は非鉄地金、冷延鋼材、石油(ナフサ、重油等)、紡績が減少した反面、鉄鋼素製品、パルプ、段ボール原紙や化学肥料、化学繊維が増加したため、前5ヵ月連続減少のあと横ばいとなった。

(設備投資—機械受注額は2ヵ月連続増加)

7月の一般資本財出荷(速報)は、-1.3%と前月増加のあと減少となった。

これを品目別にみると、発電機、通信機械や電子計算機、金属加工機械が増加したが、このところ増加傾向にあった土木工事関連の土木建設機械、圧縮機、ベルトコンベヤが当月は反動減となったほか、需要不振の化学機械、農業用機械も引続き減少した。

7月の機械受注額は船舶を除く民需で+2.5%(前年同月比+20.9%)、船舶、電力を除く民需でも+2.8%(同+8.0%)とそれぞれ2ヵ月連続の増

加となった。

業種別にみると、製造業からの受注は鉄鋼、機械、自動車がいずれも前3ヵ月連続減少のあとかなりの増加となった反面、石油、紙パ等が大幅減となったため、-3.3%(前年同月比+2.3%)と前月増加のあと再び減少した。一方、非製造業(船舶を除く)からの受注は電力が3ヵ月連続の増加となったことに加え、建設、鉱業等も増加したことから+10.4%(前年同月比+31.9%)と3ヵ月連続の増加となった。

この間、官公需は防衛庁による航空機、艦艇の集中発注や国鉄の発注増を主因に+100.9%と前月に続き大幅に増加した。

◇7月の小売商況は夏物商品主体に堅調

7月の都内百貨店売上高は+0.3%の微増となり、前年同月比でも+4.3%と前月(同+6.0%)に比べ伸び率が低下した。これには、昨年7月の売上げがバーゲン・セールsの集中等から高水準だったことも響いており、百貨店筋では引続き売上げは増加歩調をたどっているとの見方が多い。

品目別には、衣料品は、前月好伸の反動もあって、スーツ、ドレス等値嵩品を中心に全体としては伸び悩みとなったが、夏物の軽衣料は、好売行きを示し、また夏物家電、レジャー・スポーツ用品も好伸したほか、個人を中心とした中元ギフトの好調から食料品もかなりの伸びを示した。

8月の乗用車新車登録台数(軽を除く)は-6.0%と3ヵ月連続の減少となったが、前年同月比では+15.0%(前月、同+22.8%)と比較的高い伸びを維持している。車種別には、大衆車が春先から夏場にかけての新車投入の効果もあって顕著な伸びを示しているのに対して、小型車はこのところ売行きがやや鈍化している。

◇商況の基調—総じて底固いが、小幅軟化の品目がやや増加

8月の商品市況をみると、月央にかけての円相場騰騰にもかかわらず、減産体制の継続を主因に

需要先別機械受注の推移

(季節調整済み、月平均、単位・億円)

	52年	53年		53年		
	10~12月	1~3月	4~6月	5月	6月	7月
民需	2,371 (-3.0)	3,069 (29.4)	2,828 (-7.8)	2,683 (-1.1)	3,089 (15.1)	2,949 (-4.5)
同(船舶を除く)	2,375 (1.6)	2,892 (21.8)	2,718 (-6.0)	2,642 (-1.7)	2,824 (6.9)	2,895 (2.5)
製造業	888 (-8.1)	1,119 (26.0)	1,006 (-10.1)	963 (-5.1)	1,041 (8.1)	1,006 (-3.3)
非製造業	1,502 (0.2)	1,910 (27.1)	1,837 (-3.8)	1,733 (3.5)	2,104 (21.4)	1,995 (-5.2)
同(船舶を除く)	1,520 (6.3)	1,741 (14.5)	1,713 (-1.6)	1,705 (5.4)	1,815 (6.5)	2,004 (10.4)

(注) 経済企画庁調べ。カッコ内は前期(月)比増減(-)率(%)。

総じて底固い商状を続けたが、他方、輸入原材料コスト低下や、輸出の減少懸念などから小幅軟化ないし弱含みを示す品目もひとところに比べやや増加している(鋼材、C重油、毛糸、合板等)。

市況の軟化がみられた品目についてその背景をみると、高炉製品をはじめとして大方の品目で需要見合いの慎重な生産態度が維持されていることもあって需給地合いが現実大きく悪化している訳ではない。しかしながら、頃来の円相場高騰を背景に輸入原材料コストが低下傾向にあること(条鋼類、C重油、合板等)や先行き輸出の減退、輸入玉の流入増の懸念がやや強まってきたこと(条鋼類、鋼板類、合織、木材)などから、流通段階を中心にこのところ市況先高観がしだいに後退、在庫手当てもやや慎重化しており、これが市

況軟化につながったものとみられる。また一部品目については、旧盆明け後の荷動きが期待された程でなかったことも市況弱含みの一因となった模様である(棒鋼、毛糸、合板)。

(卸売物価——統落)

8月の卸売物価は、-0.9%と前月(-1.0%)に引続いて下落、この結果前年同月比では-3.6%と34年1月(同-3.7%)以来の大幅な低下となった。

品目別には、窯業製品がセメント製品の値上りから、また繊維製品も生糸、綿糸市況の上伸からそれぞれ微騰をみたものの、石油・石炭・同製品(原油、原料炭、ナフサ)、鉄鋼(輸出向け冷延薄板、厚板)、金属素材(鉄鉱石、鉄くず)等輸出入関連

卸 売 物 価 指 数 の 推 移

(単位・%)

	ウ エ イ ト	53 年		53 年					
		1~3 月平均	4~6 月平均	6 月	7 月	8 月	上 旬	中 旬	下 旬
総 平 均	1,000.0	- 0.6	- 0.3	- 0.4	- 1.0	- 0.9	- 0.3	- 0.2	- 0.1
食 料 品	140.9	- 0.6	0.4	0.2	- 0.2	- 0.2	- 0.3	0.3	0
非 食 料 農 林 産 物	18.9	1.6	- 1.3	- 1.8	- 3.2	- 0.7	0	- 0.4	0.3
織 維 製 品	62.9	1.7	1.9	0	- 0.4	0.2	0.1	0	0.3
製 材・木 製 品	33.6	- 1.5	- 0.1	- 0.4	- 0.4	- 0.3	- 0.1	0	- 0.2
パ ル プ・紙・同 製 品	28.9	- 2.8	- 3.3	- 1.8	- 2.6	- 2.7	- 0.3	- 0.2	- 2.4
金 属 素 材	12.6	2.6	- 3.2	- 1.6	- 5.7	- 3.6	- 2.2	- 0.9	0.4
鉄 鋼	80.7	1.2	1.9	- 0.1	- 0.5	- 1.0	- 0.5	- 0.4	0.1
非 鉄 金 属	26.1	- 1.1	- 2.1	0	- 2.4	- 0.4	- 0.1	0.1	- 0.4
金 属 製 品	37.0	1.1	1.6	0	- 0.1	- 0.1	- 0.2	- 0.1	0
電 気 機 器	73.3	- 0.4	- 0.9	- 0.5	- 0.5	- 0.2	0	- 0.1	- 0.1
輸 送 用 機 器	74.0	- 0.1	0	- 0.8	- 0.5	- 1.0	- 0.4	- 0.2	0.1
一 般・精 密 機 器	95.7	0.1	0	- 0.4	- 0.4	- 0.2	- 0.1	- 0.1	0.2
化 学 製 品	91.1	- 2.2	- 1.6	- 0.3	- 0.9	- 0.7	- 0.1	- 0.3	- 0.2
石 油・石 炭・同 製 品	102.2	- 3.0	- 4.8	- 1.7	- 3.9	- 3.4	- 1.1	- 1.1	- 0.2
窯 業 製 品	30.5	1.3	1.6	0	0.3	0.3	0	0	0.1
電 力・ガ ス	25.5	- 0.6	- 0.7	- 0.2	- 0.5	- 0.4	0	0	- 0.3
雑 品 目	66.1	- 1.2	1.0	- 0.1	- 0.4	- 1.4	- 0.7	- 0.3	- 0.2
工 業 製 品	816.4	- 0.5	0	- 0.4	- 0.6	- 0.7	- 0.3	- 0.1	- 0.2
大 企 業 性 製 品	579.9	- 0.6	- 0.3	- 0.4	- 0.7	- 0.9	- 0.4	- 0.1	- 0.3
中 小 企 業 性 製 品	214.6	0.1	0.5	- 0.2	- 0.2	- 0.3	- 0.2	0	- 0.1
非 工 業 製 品	158.1	- 1.1	- 1.8	- 0.8	- 2.7	- 1.6	- 0.7	- 0.5	0.5

(注) 日本銀行調べ。

消費者物価指数の推移

(単位・%)

	ウェイト	53年		53年			最近月の前年同月比	
		1~3月平均	4~6月平均	6月	7月	8月		
東 京	総合	100.0	0.9	2.1	- 1.1	0.9	*- 0.2	* 4.5
	季節商品を除く総合	91.9	0.4	1.8	- 0.3	0.4	- 0.4	4.3
	(季節商品)	(8.1)	(6.2)	(4.7)	(-10.4)	(6.8)	(* 3.7)	(* 7.0)
	食料	40.1	1.6	1.5	- 2.5	1.6	* 1.0	* 4.4
京	住居	11.1	0.5	1.5	0.3	0.8	- 0.1	4.2
	光熱	4.2	- 0.2	0	- 0.1	0	0	- 0.3
	被服	12.4	- 2.0	2.5	- 0.7	- 0.2	- 4.1	6.0
	雑費	32.2	1.3	2.9	- 0.4	0.6	0.1	4.8
全 国	総合	100.0	0.4	2.0	- 0.6	0.4	...	4.1
	季節商品を除く総合	91.7	0.3	1.7	0	0.2	...	3.9
	(季節商品)	(8.3)	(2.8)	(5.3)	(- 6.8)	(2.4)	(...)	(7.3)
	特殊分類							
国	農水畜産物	16.3	1.0	2.7	- 4.7	1.3	...	4.8
	工業製品	46.6	- 0.6	1.4	0.1	0.2	...	2.8
	うち大企業性製品	21.4	- 0.1	0.1	- 0.2	0.3	...	0.8
	中小企業性製品	25.2	- 0.9	2.4	0.3	0	...	4.5
サービス	33.6	1.2	2.7	0.2	0.5	...	5.5	

(注) 1. 総理府統計局調べ。

2. *は速報。

品が円高を映じて続落したほか、雑品目(配合飼料、大豆かす)等も原料コスト安から値下りした。

(消費者物価——8月<東京都区部、速報>は小幅下落)

8月の消費者物価(東京都区部、速報)は、総合で-0.2%と小幅下落を示した。

これは、野菜・生鮮魚介が上昇したものの、被服が衣料のバーゲンセール等を映じてかなりの下落をみたほか、果物・家具什器も小幅の下落を示したためである(季節商品を除く総合では、-0.4%の下落)。

◇輸出は引続き減少

7月の国際収支は貿易収支、経常収支が引続きかなりの黒字となったため、長期資本収支の大幅流出超にもかかわらず総合収支では、853百万ドルの黒字となった(前月は576百万ドルの黒字)。

経常収支は、旅行収支の大幅な支払超過等から

貿易外収支が流出超幅を拡大したものの貿易収支が2,705百万ドルと前月(2,954百万ドルの黒字)に引続き大幅な黒字となったため1,967百万ドルとかなりの黒字(前月は2,345百万ドルの黒字)となった。

長期資本収支は、外国資本が対日債券投資の処分増加から再び流出超に転じたうえ本邦資本が円建外債の発行増加(発行額1,450億円は既往最高)を主因に流出超幅を拡大したため本年5月に次ぐ既往第2位の大幅流出超1,413百万ドルとなった。

一方、短期資本収支は、プラント関連の輸出前受金が流入したこともあって98百万ドルの小幅流入超となった。

なお7月の貿易収支を季節調整済み計数でみると輸出(7,709百万ドル)が、前月比-1.9%と小幅ながら減少した一方、輸入(5,560百万ドル)が、前月大きく落込んだ原油の反動増等から+14.0%と増加したため収支じりは、2,149百万ドルの黒字と前月(同2,981百万ドル)に比べ黒字幅を縮小した。

この間、外貨準備高は、市中のドル余剰を映じて月中2,035百万ドル増加し、月末残高は29,366百万ドルとなった。

(輸出——前月に続き減少)

(7月の輸出国際収支ベース)は、-1.9%となお高水準(原計数の前年同月比では、+14.9%の増加)とはいえ、前月に引続き減少となった。

品目別(通関ベース)にみると重電機器、光学機器、二輪自動車、化学製品等が増加した反面、船舶、鉄鋼、ラジオ、合繊糸等が減少した。

国 際 収 支

(単位・百万ドル)

	52 年	53 年		53 年			前年7月
	10~12月	1~3月	4~6月	5 月	6 月	7 月	
経 常 収 支	4,581	3,971	4,824	739	2,345	1,967	1,494
貿易収支	6,011	5,755	6,601	1,373	2,954	2,705	1,996
輸 出	22,243	21,547	23,286	7,627	7,955	8,159	7,098
輸 入	16,232	15,792	16,685	6,254	5,001	5,454	5,102
貿易外収支	△ 1,360	△ 1,669	△ 1,577	△ 533	△ 555	△ 684	△ 457
移 転 収 支	△ 70	△ 115	△ 200	△ 101	△ 54	△ 54	△ 45
長期資本収支	△ 1,176	340	△ 3,572	△ 1,424	△ 1,044	△ 1,413	△ 156
本邦資本	△ 2,081	△ 2,844	△ 3,510	△ 1,135	△ 1,066	△ 1,283	△ 312
外国資本	905	3,184	△ 62	△ 289	22	△ 130	156
基礎的収支	3,405 (2,167)	4,311 (5,839)	1,252 (1,517)	△ 685 (23)	1,301 (1,328)	554 (△ 2)	1,338 (938)
短期資本収支	129	239	△ 60	430	△ 504	98	△ 397
誤差脱漏	479	394	△ 500	142	△ 221	201	△ 4
総 合 収 支	4,013	4,944	692	△ 113	576	853	937
金 融 勘 定	4,013	4,944	692	△ 113	576	853	937
外貨準備増減	4,980	6,360	△ 1,877	183	△ 378	2,035	251
そ の 他	△ 967	△ 1,416	2,569	△ 296	954	△ 1,182	686
外 貨 準 備 高	22,848	29,208	27,331	27,709	27,331	29,366	17,639
為 銀 対 外 ポ ジ シ ョ ン	△ 12,408	△ 14,560	△ 11,977	△ 12,920	△ 11,977	△ 13,306	△ 12,396

- (注) 1. 基礎的収支カッコ内は、貿易収支のみ季節調整した計数。
 2. 短期資本収支は金融勘定に属するものを含まない。
 3. 金融勘定の△印は純資産の減少。

輸 出 入 指 標 の 推 移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支ベース			通 関		輸 出	輸 出	輸入承認・
	輸 出	輸 入	貿易じり	輸 出	輸 入	信用状	認 証	届 出
52 年 10 ~ 12 月	6,903 (+ 3.4)	5,312 (+ 1.8)	1,591	7,058 (+ 4.0)	5,959 (+ 0.7)	4,983 (+ 4.0)	7,547 (+ 4.2)	6,005 (+ 4.6)
53 年 1 ~ 3 月	7,811 (+ 13.2)	5,383 (+ 1.3)	2,428	7,839 (+ 11.1)	6,171 (+ 3.6)	5,279 (+ 5.9)	8,078 (+ 7.0)	6,054 (+ 0.8)
4 ~ 6 〃	7,768 (- 0.6)	5,479 (+ 1.8)	2,289	7,910 (+ 0.9)	6,314 (+ 2.3)	5,357 (+ 1.5)	8,132 (+ 0.7)	6,493 (+ 7.3)
53 年 4 月	7,448 (- 6.1)	5,644 (+ 8.2)	1,804	7,646 (- 3.4)	6,349 (+ 6.0)	5,368 (- 5.1)	7,783 (- 3.5)	6,591 (+ 7.7)
5 〃	7,998 (+ 7.4)	5,917 (+ 4.8)	2,081	8,067 (+ 5.5)	6,840 (+ 7.7)	5,319 (- 0.9)	8,900 (+ 6.6)	6,372 (- 3.3)
6 〃	7,858 (- 1.8)	4,877 (- 17.6)	2,981	8,016 (- 0.6)	5,754 (- 15.9)	5,385 (+ 1.2)	8,313 (+ 0.2)	6,516 (+ 2.3)
7 〃	7,709 (- 1.9)	5,560 (+ 14.0)	2,149	7,844 (- 2.1)	6,200 (+ 7.8)	5,428 (+ 0.8)	7,846 (- 5.6)	6,772 (+ 3.9)

- (注) 1. 四半期計数は月平均。
 2. カッコ内は対前期(月)比増減(-)率(%)。
 3. 輸出信用状受取額および輸入承認・届出額は、特殊大口を除く。

地域別には、EC、中近東、アフリカ向けが好伸、東南アジア向けも増加した反面、中国、ソ連等共産圏向けが著減をみたほか米国、中南米向けが減少した。

輸出信用状接受高(季節調整済み前月比)は、7月 +0.8%のあと8月も +1.2%と増加した。

(輸入——反動増)

7月の輸入(国際収支ベース)は、前月比 +14.0

%と前月落込みのあとかなりの増加となった(原計数の前年同月比 +6.9%)。

品目別にみると機械機器、木材、綿花、砂糖等が減少したものの、前月落込みの原油が反動増となったほか小麦、大豆、鉄鉱石、鉄鋼くず、化学製品、繊維製品等が増加した。

輸入承認届出額(特殊大口除外)は、7月 +3.9%のあと8月も +2.8%と増加。